

# ノーサイド

隊員の皆さん、ご両親・お父さん・お母さんはお元気ですか？

「おまえさん、ちゃんと食べているかい？からだが資本だからね。あまり飲みなさんなよ」、「分かってる。そんなに飲んでないよ！」、「お爺と代わるね。お父さん早く早く」、「アーンだが、元気でやってくるかな。こっちは元気だから」、「あっそう。じゃあ」・・・

今、田舎の両親からかかって来た電話で思い出すのはこれだけです。いつもうるさいほど同じことを言ってきた。煩わしい思いで、すぐに力チヤンと切ったものです。

「便りのないのはいい便りなんだからとか、仕事忙しいんだから、

などを勝手なエクスキューズにして、両親に電話をかけることは、あまりありませんでした。ましてや、手紙を書くことは。両親というのは、そんなに電話などしなくても、会わなくても、いつでも居るものだと思いついていました。当たり前のことだと思っていました。

きつと隊員の皆さんの中にも、僕のような思いの方が多いのではないでしょう

しかし、あれだけ元気があった父が急に逝き、半年もたないうちに母も亡くなりました。

もう電話はかかって来ません。

たまに田舎に帰り、玄関のカギを開け、止まったままのセンマイ式時計のネジを巻き、ふと見ると電話器には大きな字で私の電話番号が書かれています。そしてその前には年季の入った主のいない座布団がそのまま。いつも両親は、この布団に正座して電話をかけていました。私のときもそうだったのでしょうか。後悔先に立たずです。

自衛隊には、ご家族から一人遠く離れ、任地で頑張っている隊員も沢山います。

そんな皆さんの留守を守っている奥さま・子供たち

## ちよつと電話

### してみませんか？

はお元気ですか？連絡させていただきますか？

「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」

よく知られている日本一短い手紙。

徳川家康の徳川三奉行の一人、奥作左と呼ばれた本田重次（通称・作左衛門）が、長篠の戦いの陣中から奥さまに送った手紙です。

奥さまを敬い、妻子を真す。

剣に氣遣う優しさ愛情が感じられる内容と言われています。

現在、単身赴任中の隊員の皆さんは、ひよつとしたら「亭主元気で留守がいい」の典型かもしれません。でも、そんな亭主の陣中（任地）からの連絡は、たとえ歴史に残るような名言や名文でなくても、会えないことで思いが募っている奥さまとご家族にとつては、何物にも代えがたいオンリーワンの愛のメッセージです。元気の源です。

特に今、防衛省・自衛隊は、いわゆる「日報」問題によって大きく揺らいだ国民の皆さんの信頼を回復するため、全力を尽くさなければならぬ真つ只中に在ります。

4月6日に行われた小野寺五典防衛大臣の、全自衛隊員に対する特別訓示で

「...今、ここに、私は隊員諸君の先頭に立ち、防衛省・自衛隊に対する国民の信頼回復に全力を注ぐことを誓います。私の危機感と信頼回復への決意を、全国25万の隊員全員で共有し、自衛隊が国民の信頼を回復するために今自分が何をなすべきか強く自問してください。全国の隊員諸君の奮起を期待！」

奥さまやご家族の皆さんの歯に衣着せぬ批判や意見・叱咤激励は、国民の皆さんが抱えている率直な思いそのものです。全国の隊員の皆さん、今日ばかりと電話してみませんか？

.....

北原 巖男（きたはらいわお） 中央大学。70歳。長野県伊那市高遠町出身。元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現（一社）日本東ティモール協会会長